

五戸総合病院での研修を終えて

令和3年8月研修医
大阪市立大学医学部附属病院
初期臨床研修医 中島 瑞紀

私は令和3年の8月に1か月間、五戸総合病院で地域研修をさせて頂きました。普段勤務している大学病院以外での研修は2度目でしたが、青森県どころか東北地方に訪れたことのなかった私にとって、期待と不安が入り混じる思いで研修をスタートしました。この1か月を振り返ると、地域に根差した訪問診療をはじめ多くの経験をさせて頂き青森研修を希望して本当に良かったと思います。研修最終日は大阪に帰ることを寂しく思うほどでした。

研修内容として外科1週間・内科3週間と盛り沢山の研修をさせて頂きました。

外科研修では手術や入院患者さんの胸腔穿刺などの処置をさせて頂きました。まず驚いたことは、普段勤務している大学病院と違い手術時の麻酔は自科麻酔で行なっていることや、外科の先生が外来で診察した内科疾患も入院後も継続して診られていることでした。手術室では全身麻酔に加え、腹腔鏡のカメラ持ちや、粉瘤手術の執刀などの初めての機会を外科研修経験の少ない私にも次から次へと与えてくださいました。消化器癌や乳癌、静脈瘤と外科の先生方の扱われている範囲は幅広く、患者さんにとって必要なことなら専門外でも診ていくという情熱を先生方からひしひしと感じました。広い診療範囲をカバーしていこうという先生方の姿勢は将来の私の医師としての在り方を考えていく上での指針となりました。

内科研修では一人での外来担当や入院患者の主治医を任せて頂きました。病室の主治医欄に自分の名前が書かれているのを見た時は内科医としての一步を踏み出したように感じ嬉しく思いました。実際主治医になると、自分の行なった治療が患者さんの病状に如実に表れ主治医の責任の重さを身をもって感じました。来年から専門分野の研修が始まり、主治医となっていく上で、研修医の間に主治医を経験させて頂けたのは大変勉強になりました。

地域研修ならではの研修では、自宅や老人ホームなどの施設への訪問診療や地域ケア会議、障害者支援施設でのコロナワクチン接種業務に同行させて頂きました。訪問診療はご高齢で胃瘻造設されている方など、頻繁に通院しにくい患者さんが対象となっていました。この患者さん達にとっては、月に1回訪問診療を受けることが健康状態管理の大きな安心材料になっていて、訪問診療は大切な仕事だと感じました。障害者支援施設での入居者の仕事場の見学もさせて頂きました。車のハーネス部分の作成や近隣の温泉施設の衣類の洗濯やお弁当作りなど色々な仕事ができる環境が整っていて、入居者の個々の意欲に応じて仕事とお給料が与えられる制度になっているとお聞きしました。普段は目にすることが少ないですが、地域に根差したこのような施設があることを知ることが出来ました。その他にも内科研修の合間に、死体検案や小児検診にも同行させて頂きました。

この一か月間で経験させて頂いた沢山の学びを忘れずに、今後も医師として精進していこうと思います。大変お世話になりました、院長の安藤先生、指導医の佐藤先生、内科の新井田先生、外科の井上先生と後村先生、小児科の笹野先生、ご指導頂き有難うございました。温かく迎え入れてくれた看護師さんと事務スタッフの方々にも感謝申し上げます。